りょうかわ

学校だより　令和元年12月5日号　新潟市立両川小学校

ボクの自学ノート　梅田明日佳さんから考えたこと

校長　　中村　雅芳

１１月３０日（土）２１時よりＮＨＫで放映された「ボクの自学ノート～７年間の小さな大冒険～」を視聴しました。主人公は北九州市在住の高校２年生 梅田明日佳さん。彼は，小学校３年生から学校で薦められた自学ノートに取り組みはじめ，課題ではなくなった中学生になっても，高校生になった現在も，まるで個人で部活動をするがごとく続けています。これまでに書きためた自学ノートは全部で２１冊にものぼります。

彼の追究内容や追究姿勢以上に，周囲の大人たちが共鳴し，次々と増えていく過程に圧倒されました。明日佳さんは，興味・関心をもった対象を取材し，ノートに記録します。きっかけは新聞記事から。さらに深掘りしたいときは，現地に出掛けて自ら取材もします。その結果得られた成果をレポートにまとめ，手紙を書き，その研究に携わる大人に送ります。受け取った大人たちは，彼の真摯な姿勢に心を打たれて返事をしたり，自学ノートにコメントを返したりします。こうして周囲の大人たちは，次々と明日佳さんに引き込まれ，心に灯を点けられていくのです。地元の記念館，博物館，文学館などに勤めている人たちにとって，明日佳さんは有名人です。熱心に展示物を見ているだけでなく，自分たちの仕事の一片に情熱をもってコミットし，表現してくれる子どもは，後にも先にも明日佳さんだけだと，大人たちは異口同音に語ります。

そんな素晴らしい明日佳さんですが「かなり風変わりな子ども」でもあります。学校で友だちと溶け込むこともなく，むしろ学校嫌いです。夏休み，冬休み，春休みがあるからこそ，何とか学校に通えていた「どうにかこうにか中学生」だったと自虐的に振り返っています。同級生たちも，明日佳さんがしていることに無関心で，授業が終わると猛ダッシュで帰ってしまう「変な子」としか見ていませんでした。学校の勉強はあまりできる方ではなく，第一志望の公立高にもふられてしまいます。

番組の中で，明日佳さんのお母さんは，子育て中の焦りや不安を正直に語っていました。「学校で求められている子ども像とは真逆な自分の子ども。社会の中で生きていけるのだろうか？」と真剣に悩んだ時期もあったそうです。でも，お母さんは明日佳さんに，昆虫学者 福岡伸一の言葉を贈ります。

大切なのは，何かひとつ好きなことがあること。そしてその好きなことがずっと好きであり続けられることの旅程が，驚くほど豊かで，君を一瞬たりともあきさせることがないということ。そしてそれは静かに君を励ましつづける。最後の最後まで励ましつづける。

福岡伸一の著書『ルリボシカミキリの青　福岡ハカセができるまで』（文春文庫）の一節です。達筆に書かれたそのメッセージは机の上に貼られ，明日佳さんはいつも，このメッセージを眺めています。なんて素敵な親子関係なのでしょうか。

ところで，日を経ずして，ＰＩＳＡ調査の結果，日本の高校生の読解力が８位から１５位に急落したという記事が，昨日の新聞に載りました。ここでいう「読解力」とは「本を読んで内容を理解する力」ではなく「情報を探し出す力」「根拠を示して考えを述べる力」「文章の信憑性を評価する力」なども入った「広い意味の読解力」を指します。２００３年のＰＩＳＡショック以来，国を挙げて学力向上に取り組んできたはずなのに，残念なことです。また，このニュースに呼応するように，昨日付の朝日新聞には「変わる定期テスト」という見出しで，福岡県須恵町立須恵中学校で始まった「自作ノート持ち込み可の定期テスト」のことを伝えています。さらに，千代田区立麹町中学校，世田谷区立桜丘中学校，金沢市立西南部中学校では「定期テストを全廃」したことも。どれも生徒の「考える力」をつけるための取組です。従来の価値観を見直し，これからの未来，ボーダレスな国際社会を生き抜いていくための「真の学力」を，私たち教師は子どもに付けていかなければならないと，これらの記事から強く思いました。

ひるがえって，梅田明日佳さんが歩んできた道は，正しかったのではないかと感じました。従来の学校教育では肩身の狭い思いをしてきた明日佳さんは，実は誰よりも生きる力を身に付けてきたのではないでしょうか。そして，このような人が，未来を力強く創造していくのではないかと考えています。この番組が初めて放送されたのは，ＮＨＫＢＳ１で令和元年５月１日でした。番組ディレクターの佐々木健一さんは，番組ＨＰで次のように述べています。

周囲から「不思議な子」「謎めいた存在」と思われていた梅田さん。取材を進める中で，もし私が「梅田明日佳さんってどんな子？」と聞かれたらどう答えるだろうかと考えました。私の答えは，「考えさせられる子」です。ひたむきな彼の姿はもちろん，地域の大人との関わりや彼を取り巻く“社会”の有り様を見ていると，様々な“問い”が浮かんできて否応なく考えさせられてしまうのです。

「学び」とは本来，何なのか？
「伝える」ってどういうこと？
「大人」は，「これからの日本」は，どうあるべきか？

番組の放送は，「平成」が終わり，新たな時代の幕開けとなる「令和元年」初日（２０１９年５月１日）です。そのタイミングに，多くの人が“これから”について考えるきっかけになればと思っています。